

第3章 研究評価委員会の講評と土木研究所の対応

1、土木研究所 研究評価委員会の講評

第2章に示した土木研究所研究評価分科会での評価結果とこれに対する土木研究所の対応を踏まえ、平成17年12月1日に土木研究所研究評価委員会を開催し、重点プロジェクト研究について最終評価を行った。審議の詳細については本書の巻末参考資料に議事録として示すとおりであるが、研究評価委員会における講評は次のとおりである。

講評

委員のみによる審議を行った後、土木研究所が実施する重点プロジェクト研究について、玉井委員長より以下のとおり講評がなされた。

研究評価委員会は、先に開催された研究評価分科会の結果については、これを了承する。その上で以下の3点をコメントする。

査読付きの論文が少ない。特に国際的にも評価の高いジャーナルへの論文が増えることが重要である。

成果の公表・発表に関して、マニュアル類の発行予定については年次を明確に示すことが必要である。

国際貢献に関して、マニュアル類はできるだけ英文で作成するように努めて頂きたい。また、ISOなどの国際基準に日本の成果が反映されることが重要であり、日本の社会基盤分野のリーダーとしての認識を持って対応して頂きたい。

2、 土木研究所の対応

土木研究所研究評価分科会での評価結果は、土木研究所研究評価委員会において了承されたので、今後提案した実施計画に従って鋭意研究を進め、実施計画書に掲げた達成目標の実現を目指していきたい。

上記の講評に対する土木研究所の考え方は次の通りである。

【指摘】

：査読付きの論文が少ない。特に国際的にも評価の高いジャーナルへの論文が増えることが重要である。

【対応】

査読付き論文、特にジャーナルペーパーについては、研究成果をとりまとめた上で今後ともできる限り投稿するように努めて参りたい。

【指摘】

：成果の公表・発表に関して、マニュアル類の発行予定については年次を明確に示すことが必要である。

【対応】

マニュアル類の発行については、予定年次を明らかにするとともに関係機関と調整を図り、研究成果が反映されるようフォローアップを行い、研究成果の普及に一層努めて参りたい。

【指摘】

：国際貢献に関して、マニュアル類はできるだけ英文で作成するように努めて頂きたい。また、ISOなどの国際基準に日本の成果が反映されることが重要であり、日本の社会基盤分野のリーダーとしての認識を持って対応して頂きたい。

【対応】

国際基準関係の委員への就任や会議への出席を通じて、土木研究所の研究成果をはじめとする日本の技術が国際基準に反映されるよう努めるとともに、重要なマニュアル類の英文化にも努め、社会基盤分野の国際化に貢献して参りたい。